とおり盛時組合員三百名を算した。その他大阪鉄工組合員の組織せる南恩加島購買組合、神奈川県の友愛會川崎信用購買組合、秋田市の秋田共済購買組合、又大正十一年に深川区新井島町に労働購買組合（一口金五円、最初払込二円五十銭、後随時払込）等が陸続起ったのであった。然らば何故にかくの如く大正八九年頃に於て消費組合の勃興を見たか。先世界を風靡したかの欧州戦争は我国 経済界に多大の影響を及ぼし、我国の資本家は漁夫の利を占めて一段の勃興を来した。而して資本主義的企業は甚しく増加し従って労働者も激増した。かくて一方が [illegible] 大恐慌を以て [illegible] 資本家労働者の [illegible] 所謂産業組織上の [illegible] に投げ出された。労働者は [illegible] 其の日を糊することの方を唯一の [illegible] とし満足しなければならなかった。労働者は賃銀増加等 [illegible] 一方商品 [illegible] の一方面に [illegible] 自の日常生活 [illegible] の上に、共同自助の必要なることを知りて [illegible] 原因したのであらう。而して又其等 [illegible] 消費組合の誕生に於けると同じく熟練工を其の中心として居ったと云ふ事実は特に興味を以て看るべき現象であると思ふ。

都て消費組合運動は、経済運動であると同時に社会運動である。而も労働組合運動の如きは、[illegible] 点から之を見れば花々しき運動であるに反し、消費組合運動は一銭一厘からして蓄へて行く細微な而も消極的な運動である。従って労働組合に於けるが如く喧騒な [illegible] によって動き（？）誘劃される運動ではない。組合全体が悉く自家経済に対すると同一な考へ方によって協同し行動して行かなければならない。当時の蜂起したかくも多くの消費組合が現在その一二を残して消え去った理由は奈辺にあるや。その消滅理由の大半は如上の事柄がその最大原因と思はれるが其他種々の理由よりして是等大正九年頃に起った消費組合の大半は次第にその姿を消して行って、現在僅に残存して居るものは僅かに二三にとどまって了った。その中最も基礎堅固に創立當初に数倍して発展し活動して居るものは、かの購買組合共働社即ち現在の関東消費組合聯盟である。

（四）

「資本と労力との対等共立関係を確定すること」を綱領とする企業立憲協會に於て大正九年七月一日、岩本庄蔵、出合信美、小久保吉郎、田中正太郎、岡本利吉、等と共に共働會を設立した。而してその目的は「共働自治の産業を経営すること」に在った。或は純労